

平成 24 年度は、歴代陸軍参謀総長及び海軍軍令部長の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

なかむた くらのおすけ
《 中牟田 倉之助 1837～1916年 》

－日本海軍の創建、育成に貢献した隠れた逸材－



横須賀兵学校分校を機関学校と改唱等の件 兵学校并造船所え達 (登録番号：海軍省一公文類纂-M11-26-330)

中牟田倉之助中将は、明治3年12月、海軍中佐に任官、その後、海軍兵学校長、東海・横須賀・呉鎮守府司令長官、海軍大輔、海軍大学校長、軍令部長等の要職を歴任しました。この史料は、横須賀造船所長であった同中将（当時少将）が川村純義海軍卿に提出した明治11年5月27日付「横須賀兵学校分校へ機関科生徒轉移御下問上答」です。横須賀造船所に隣接する海軍兵学校分校に機関科生徒を移し、機関学校と改称する件について「至極可然當所ニ於テハ何等異見之廉無之候」と異論ない旨の回答をしています。同分校は、同年6月に海軍兵学校付属機関学校と改称され、明治14年7月に海軍機関学校となりました。



伝書鳩廻送飼用の件

(登録番号：海軍省一公文備考-M27-4-199)

この史料は、在イタリア公使館付の伊地知彦次郎海軍大尉（後の中将、日本海海戦時の三笠艦長）から、軍令部長の中牟田中将に提出された明治27年2月21日付「当館ニ於テ小官飼養ノ軍用鳩本邦廻送方ノ義ニ付上申」です。通信手段としての伝書鳩の有益性に着目した伊地知大尉が「本邦へ廻送シテ実地ニ我海上ニ於テ」実験したいとして日本への輸送を上申しています。伝書鳩は、その後、鎮守府等で実用のための実験が行われましたが、無線電信の発達等により、明治39年には一旦、廃止が決定されました。しかし、第一次世界大戦での活躍が評価されると、大正7年から再び研究が開始されることになりました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

- ※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課
専用線：8-67-6522、6588（史料紹介コーナーのみ6668）
外線：03-3713-5912
FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp
- ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>